

浜松の「京丸園」

障害者に職場 農業を活性化

芽ネギやミツバなどの水耕栽培で障害者雇用を実践している「京丸園」(浜松市南区鶴見町、鈴木厚志社長)が、障害者向けの作業補助機械の開発に取り組んでいる。NPO法人しずおかユニバーサル園芸ネットワークの事務局長も務める鈴木社長は「障害者の働き場を創出すること、農業の活性化につなげたい」と意欲的だ。

現在開発中の障害者向け ったり座 ったりを繰り返す 補助機械は、芽ネギの害虫 ことによって、作業者が動 を取り除く掃除機「虫トレ きながらリハビリや軽い運 ーラー」。水耕ベッドの上 動ができるのが特徴だ。一 から黄色い光を当てて害虫 定時間がたつと作業台の位 をおびき出し、風で一気に 置が約30秒高くなったり低 吸い上げる。作業者は車輪 くなったりする。

◆大きいメリット

京丸園が障害者雇用を始 めたのは約15年前。現在は 16人(知的障害者7人、身 体障害者3人、精神障害者

6人)を雇い、研修生7人 を受け入れている。 障害者雇用や「ユニバ ーサル農業」は社会福祉の視 点で捉えられがちだが、純 粋に農業サイドからみたメ リットも大きいというのが

補助機械 開発 作業負担を軽減へ

鈴木社長の考え方。「障害 を誰もが働きやすい場所にな る」。実際、同社が障害者 を雇用することは、農園 変化させるきっかけにな 向けに開発した補助機械 て雇用拡大に取り組む。

は、健常者の作業負担の軽 減にもつながっている。 「障害者の視点に立つこ とで、働きやすさや作業工 程の見直しなどについての 新しい考えを持てたことが 利点。その結果、従来のや り方を変えることが必要に なるかもしれないが、それ が凝り固まった農業を生ま れ変わらせ、担い手不足解 消のヒントにもなるはず」

◆浜松が先進地に

県西部農林事務所による と、ユニバーサル農業に積 極的な本県の中でも浜松市 は特に先進地で、パートや 研修生として障害者を受け 入れる農家が50軒近くある という。

同市はさまざまな部署に またがる「市ユニバーサル 農業研究会」を

5年前に立ち上 げ、NPO法人 や地元の大学、 ハローワークなどと連携し て雇用拡大に取り組む。

事務局を担う農業水産政 策課の担当者は「障害者雇 用は農家の重荷になるもの ではなく、経営改革や意識 改革を促すもの」と説明し、 「京丸園のような民間や地 域の主導で、浜松はユニバ ーサル農業の全国的な先進 地になった。今後も幅広い 連携をサポートできれば」 と語る。



「虫トレラー」の試作機を動かす鈴木社長(右)浜松市南区鶴見町の京丸園

農 林 水 産



★三方原馬鈴薯をプレゼント 今年も「三方原馬鈴薯、一写真」の季節がやってきた。三方原馬鈴薯は

素材の特徴を生かして粉ふきいもとしてシンプルに食べていただくのがお勧めだが、サラダや肉